

# 景況動向指数 (Diffusion Index)

(2021年10月～12月)



経営発達支援事業資料

長浜市商工会

# 調 査 対 象 事 業 所

長浜市商工会 管内100事業所

製 造 業 ( 2 0 事 業 所 )

建 設 業 ( 2 0 事 業 所 )

卸 小 売 業 ( 2 0 事 業 所 )

飲 食 宿 泊 業 ( 2 0 事 業 所 )

サ ー ビ ス 業 ( 2 0 事 業 所 )

\* 調査期間 2021年10月～12月

この資料は、経営発達支援事業の地域の動向調査に関することの目的で実施した資料です。

## \* D I とは？

本報告書の中で%以外に用いているD I 指数とは、ディフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略です。

各調査項目について増加（上昇、好転、長期化）企業割合から減少（低下、悪化、短期化）企業割合を差し引いた値を示します。

D I が+（プラス）なら強気（楽観）、-（マイナス）なら弱気（悲観）を表します。

例えば売上高で増加企業 50%、不変企業 30%、減少企業 20%の場合、

D I 指数・・・ $50\% - 20\% = 30$  となり、全体として経営者の売上に対する強気の度合いを表しています。

製造業（2021年10月～12月）DI値抜粋

コメント

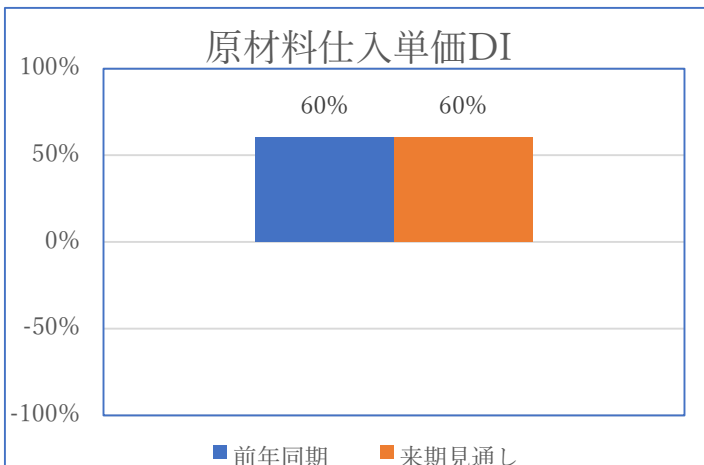
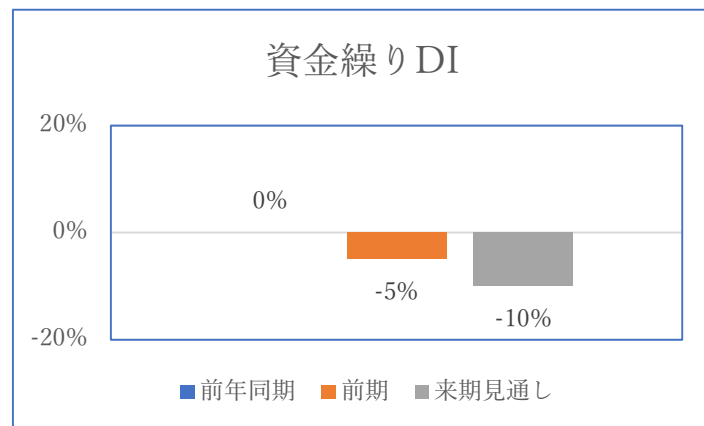
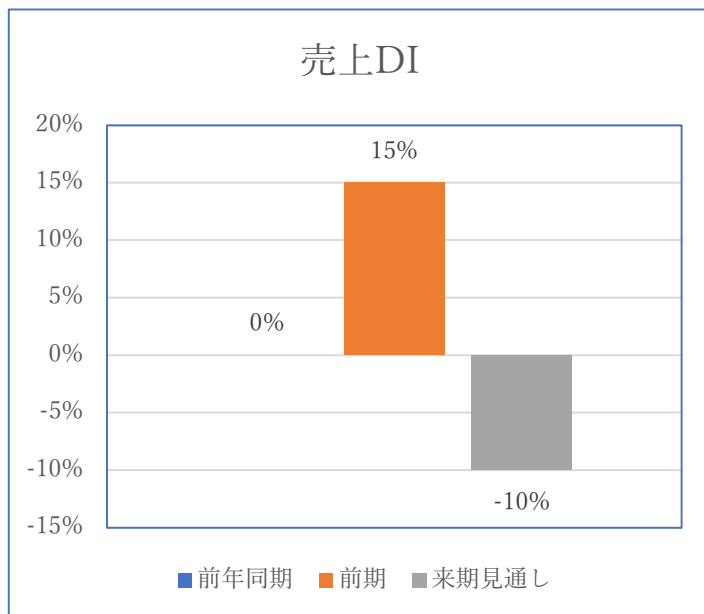
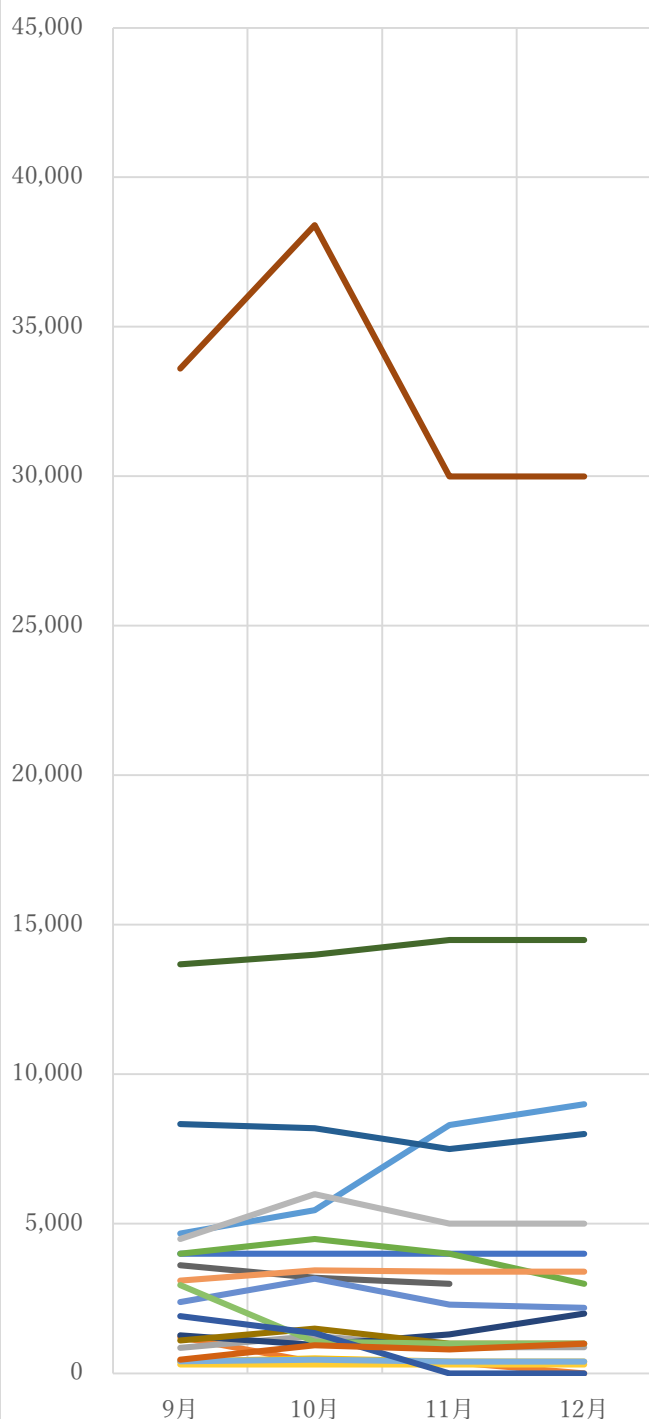
製造業の業績判断にかかるDIは、コロナによる売上減少の動向はおさまっているが原価の上昇の影響による収益圧迫の影響が見受けられる状況である。

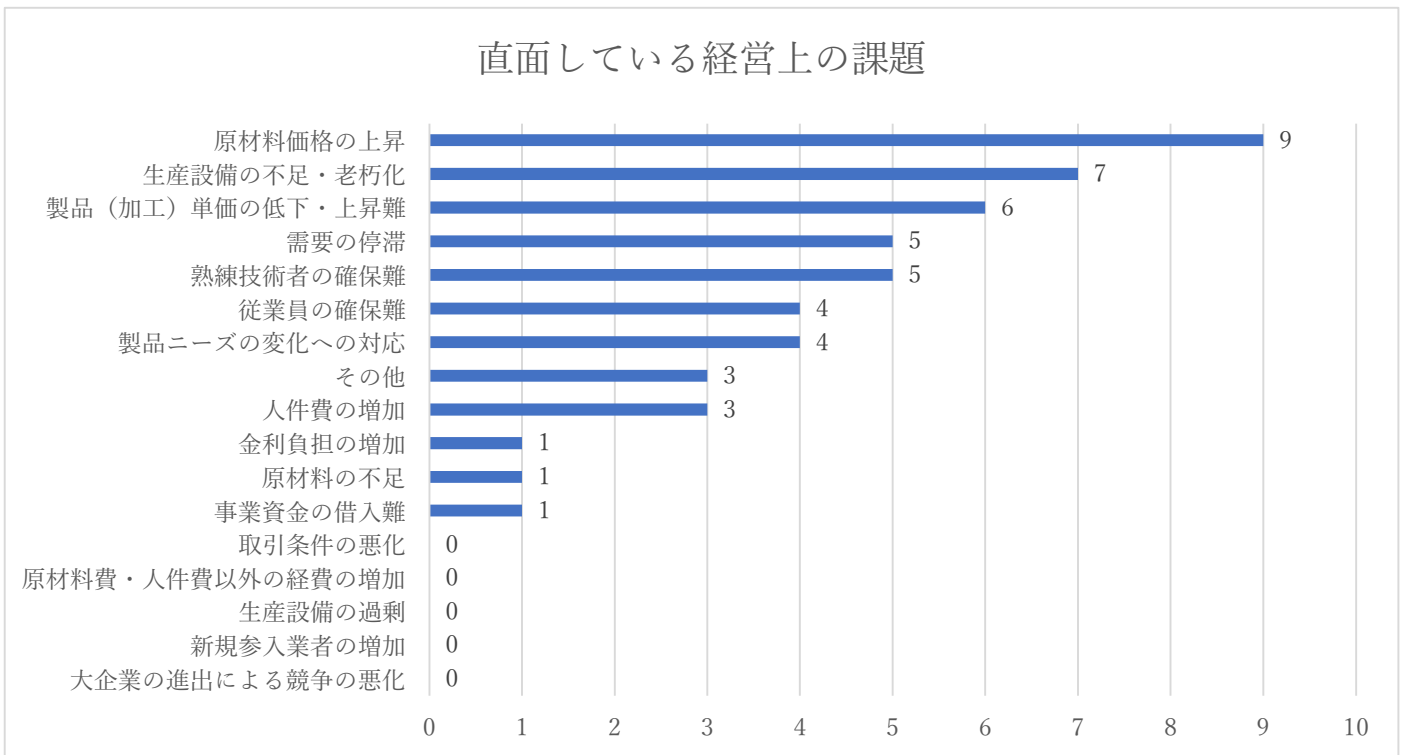
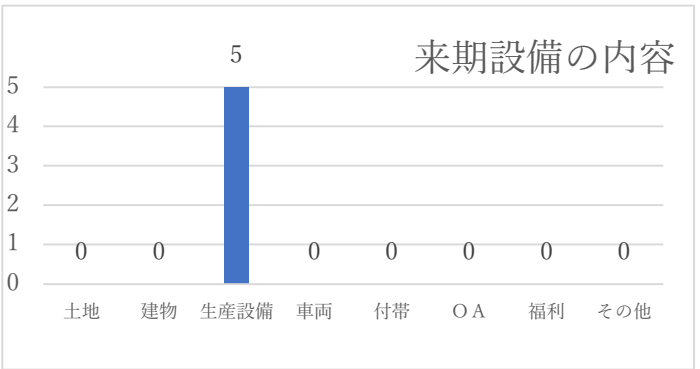
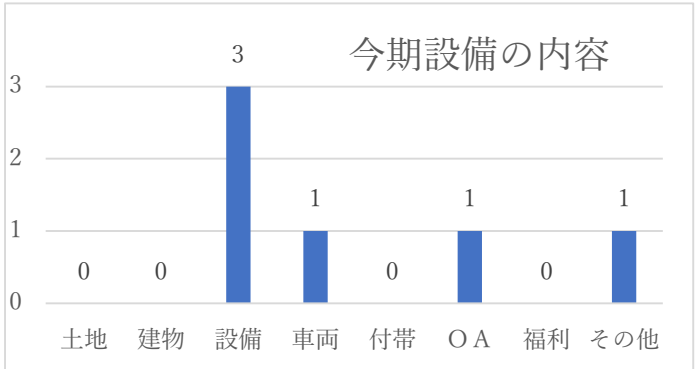
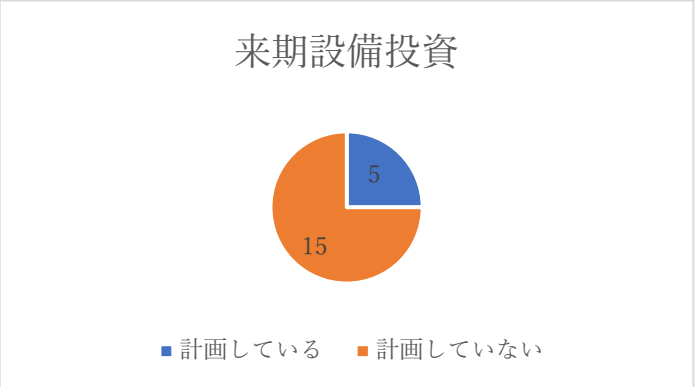
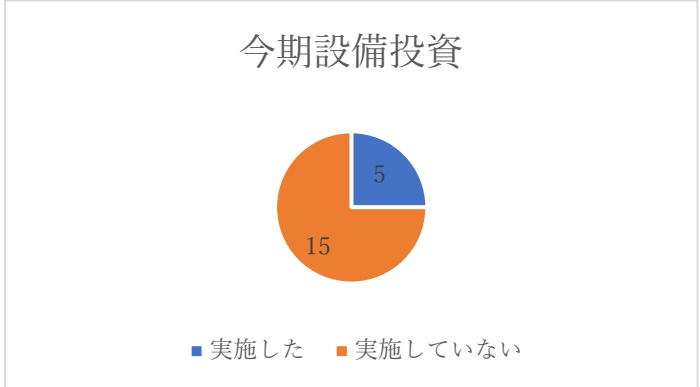
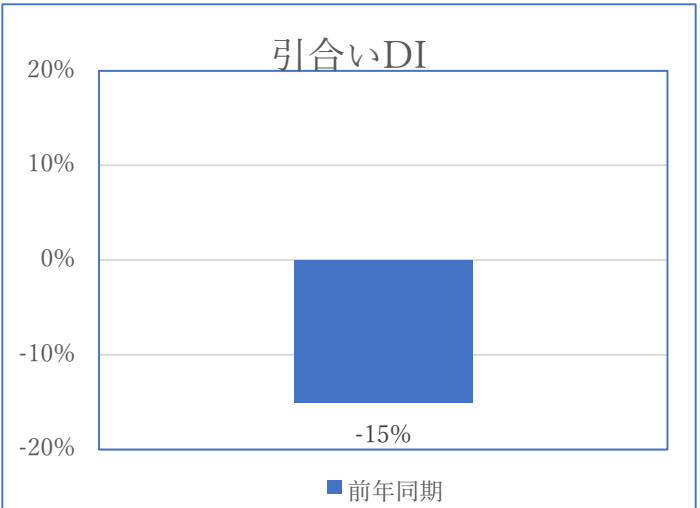
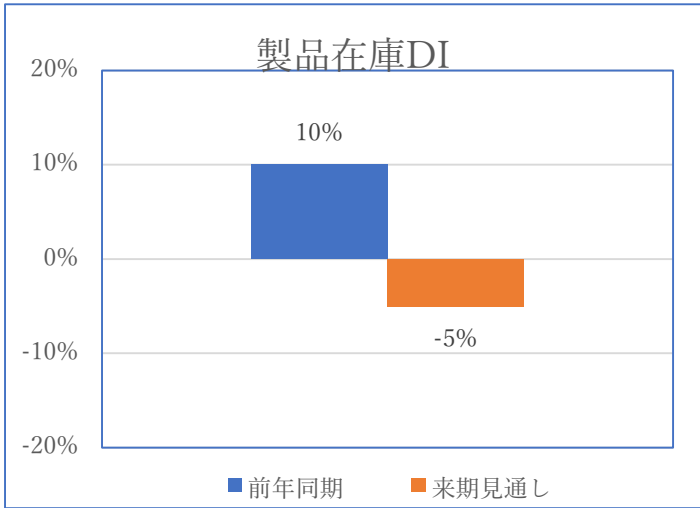
売上DIは前年同期±0、前期+15と下げ止まり回復の傾向にあるが来期見通しについては▲10と弱含みの見通しである。

資金繰りDIについては前年同期±0、前期は▲5と拮抗した状況がうかがえ、来期の見通しは▲10と見込まれる。原材料仕入単価DIの上昇傾向が続き、前年同期+60、来期見通し+60と原価上昇の影響を上げる企業が過半である。引合いDIについても、今期水準▲15と低調である。

設備投資について、生産設備の投資を行う企業が低調ながら続いており、他業種よりも回復が見受けられる。

個別の声としては明るい声も聞こえる。淡水魚の加工食品の売上が好調、企業向けの配食サービスの売上が伸びている、スーパーにおけるコロナによる内食需要で食品の製造が好調との声がある。売上回復はあるが、集金が2か月遅れなので資金繰り面で厳しいとの声もあった。





建設業（2021年10月～12月）DI値抜粋

コメント

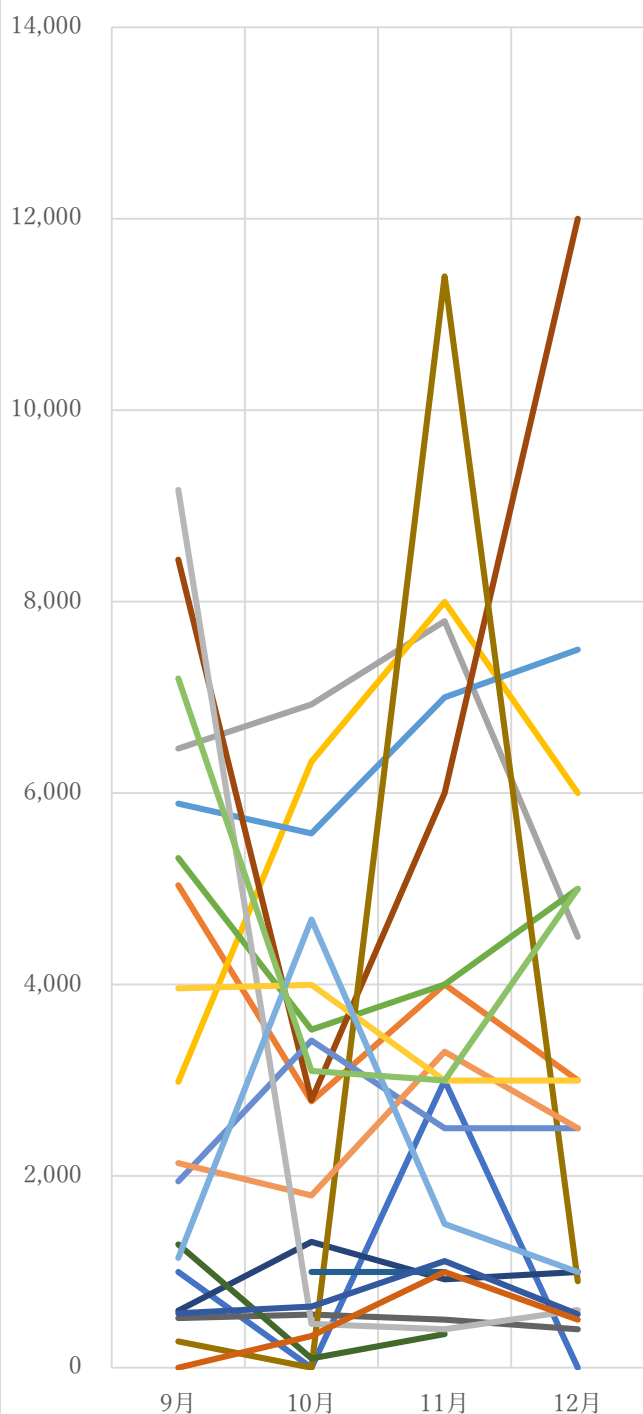
建設業の業況は、受注自体は前年より若干の改善が見受けれるがウッドショックや鉄材の原料価格の上昇による採算の悪化懸念が高まっている。

完成工事高DIは前年同期+5、前期+15と足元の低調な状況に加え、今後の見通しは▲25と先行きも厳しい状況が見受けられる。

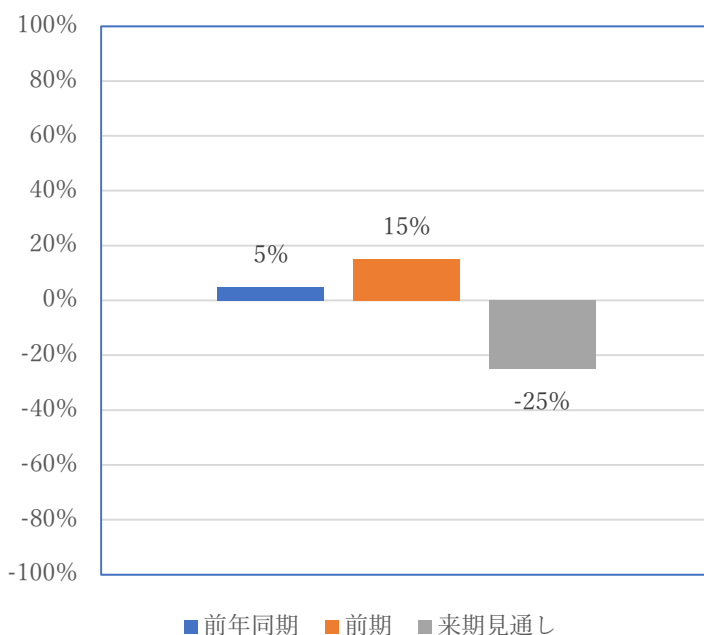
材料仕入れ単価DIが極めて厳しく、前年同期+75で大半の企業が材料の値上がりの影響があると回答している、来期見通しとも+50と木材や鉄材の仕入価格の値段上昇の声がある。資金繰りDI引合いDIとも低調な状況が続いている。設備投資も足元、先行きとも低調である。

個別企業の声として、材料費がこの半年で2割上昇してしまい、利益率を圧迫している。ウッドショック後の受注減少の噂があったが、7月以降は昨年より受注があった、しかし材料費の高騰が不安であるという声や、設備機器（トイレ、エコキュートなど）がコロナで入ってこなくて工事が出来なくて大変である。といった不安な声があった。来期の工事の見通しが夏ごろまで入っているとの工務店の声もあった。

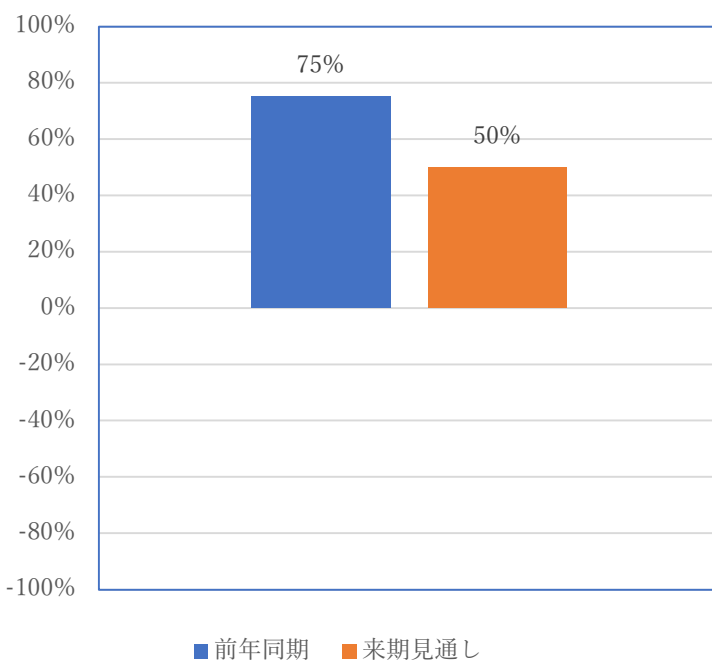
売上推移（千円）



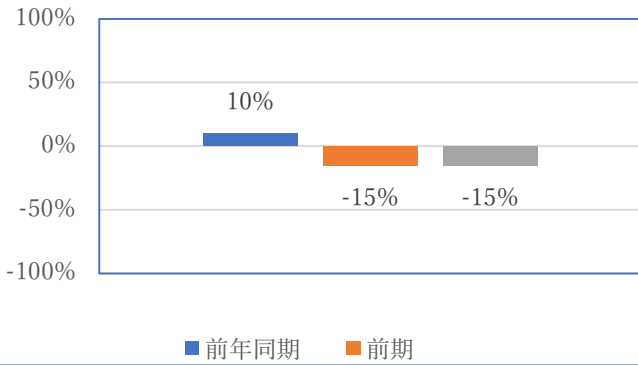
完成工事DI



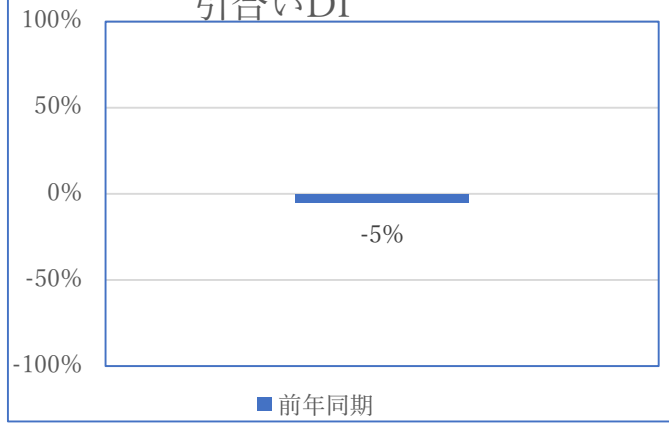
材料仕入れ単価DI



### 資金繰りDI



### 引合いDI



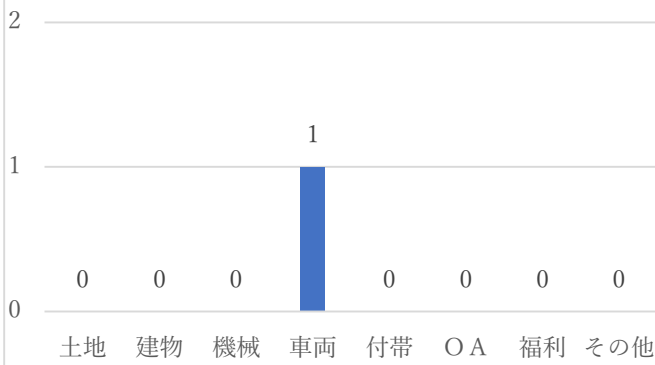
### 今期設備投資



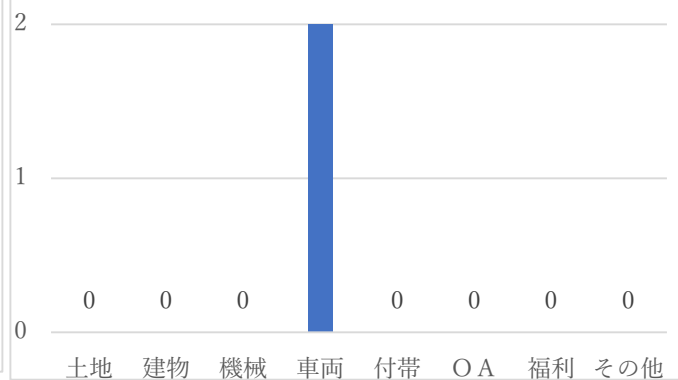
### 来期設備投資



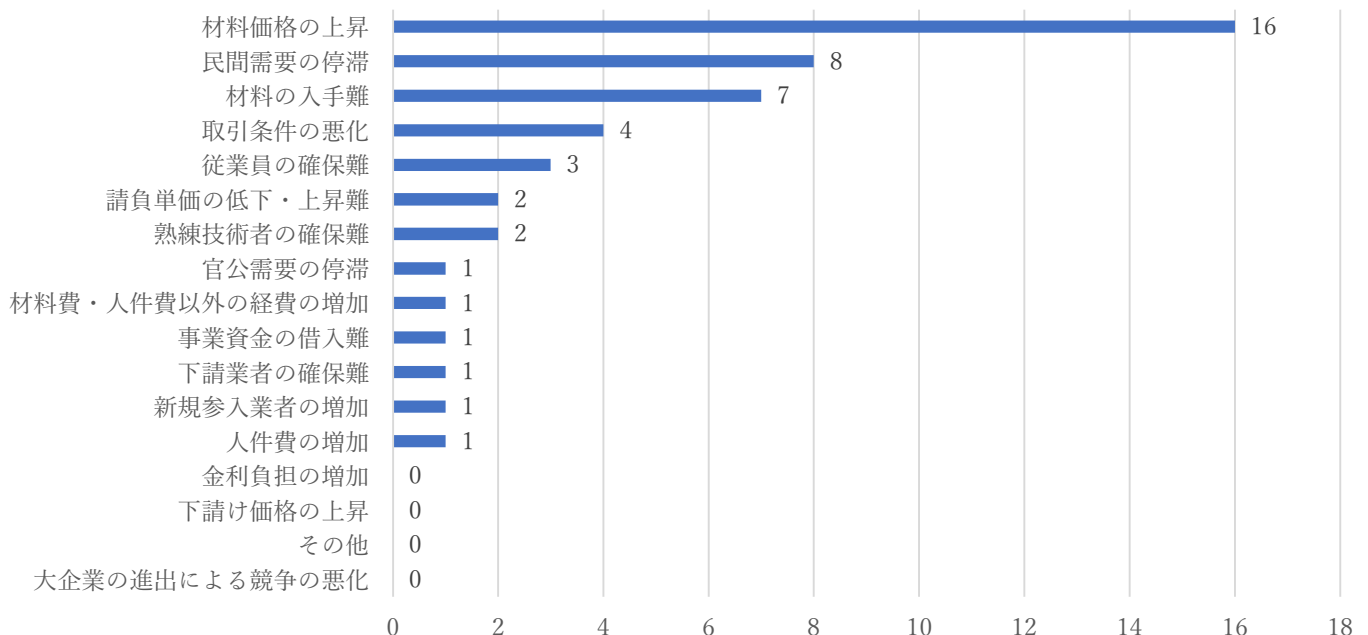
### 今期設備の内容



### 来期設備の内容



### 直面している経営上の課題



卸小売業（2021年10月～12月）DI 値抜粋

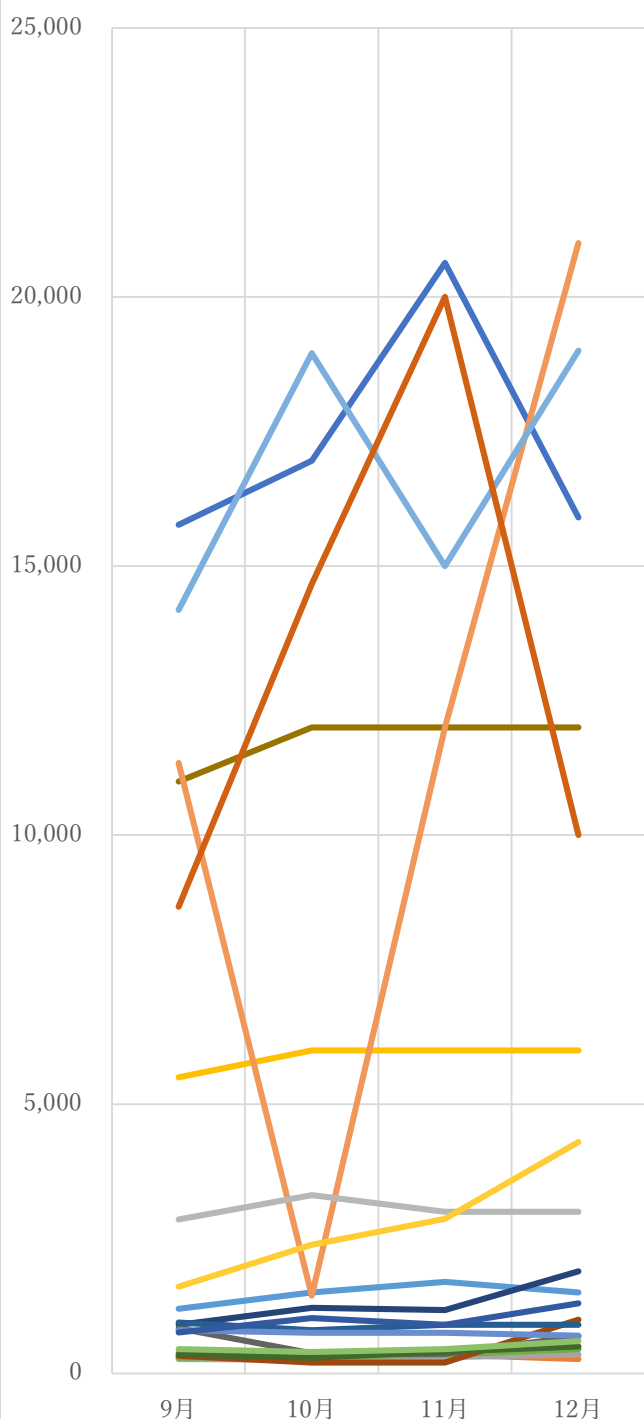
コメント

卸小売業の業況に関するDIは、緊急事態宣言の解除による前期からの改善が見受けられる状況ながらまだ先行きに不安を感じる内容となっている。

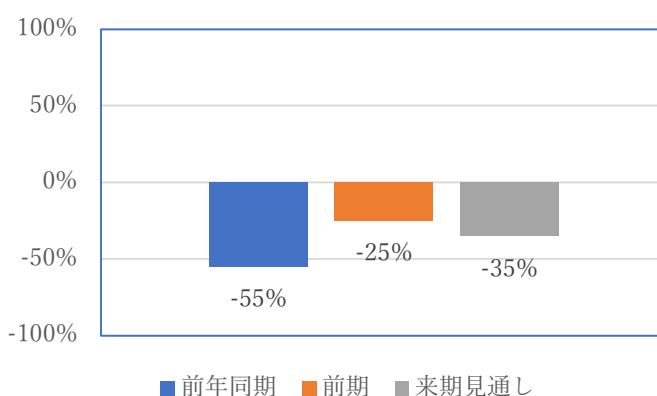
売上DIは前年同期▲55と前年より減少の声が多いが、前期からは▲25と低調ながらマイナス幅は縮小している。今後の見通しは▲35と低調となっている。

資金繰りDIについても前年同期▲45、前期▲30と現況についての厳しい状況が続き、来期も▲45と資金繰り面に不安を抱える声大きい。生活様式の変化もあり店頭客の減少が顕著である。客数DIは前年同期▲70、前期▲40 来期見通しも▲35と過半数を超える企業が来客の減少を訴えている。採算面では仕入れ価格の上昇を上げる企業が多く、商品仕入単価DIは前年同期+40、来期+40と原価の上昇により収益が圧迫されている。借入金について、長期短期とも、▲5と来期見通しで懸念がみられる。個別の声として、去年のGOTOのような景気の浮揚感がなく早くコロナが収束し明るい社会の雰囲気にならないと業況改善が見込めない、コロナの影響で生活様式が変わり冠婚葬祭が全くなく、それに伴う商品が売れない。人の動きが鈍く、購買力が低下しているとの深刻な声がある。キャッシュレス決済還元で売上減少は酷くなかったが仕入単価の上昇が懸念されるとの声があった。

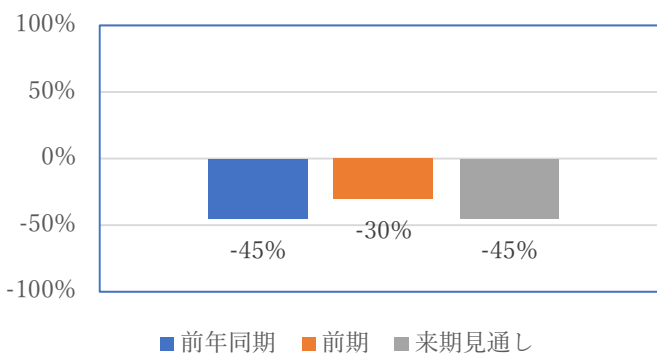
売上推移（千円）



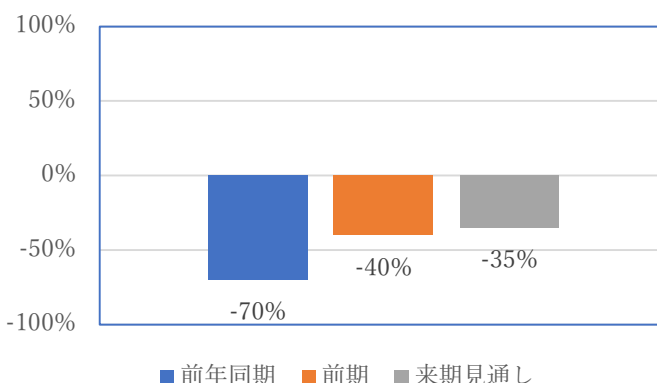
売上DI

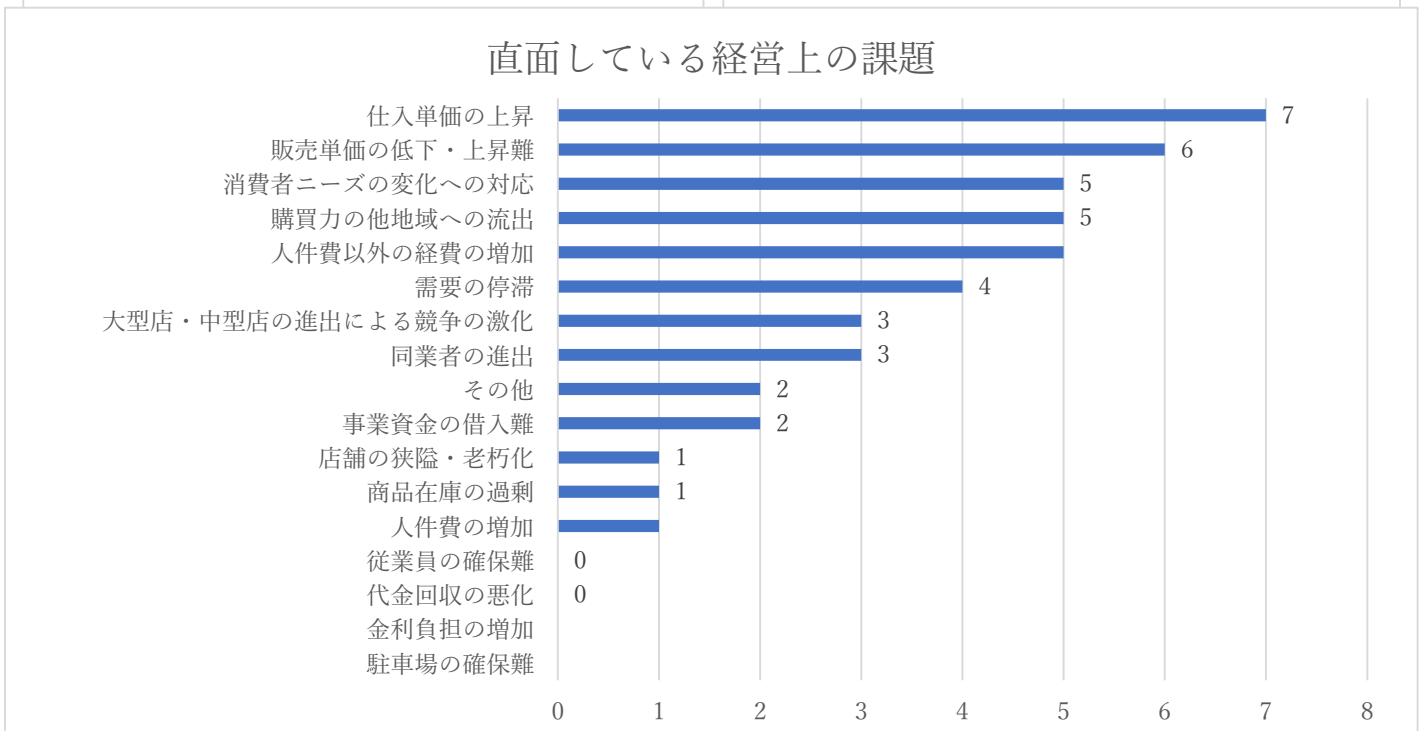
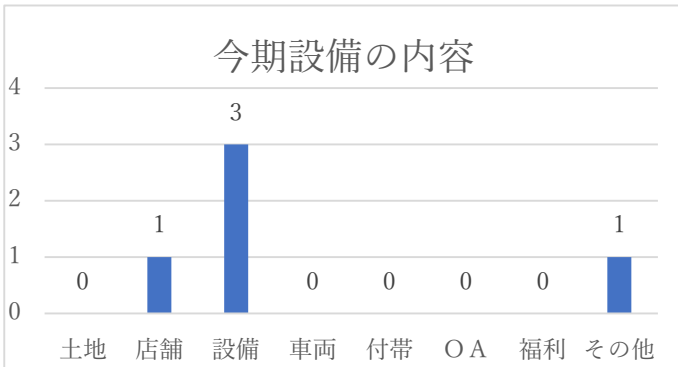
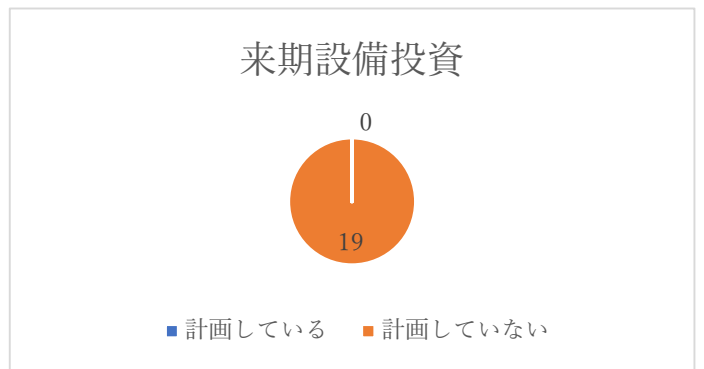
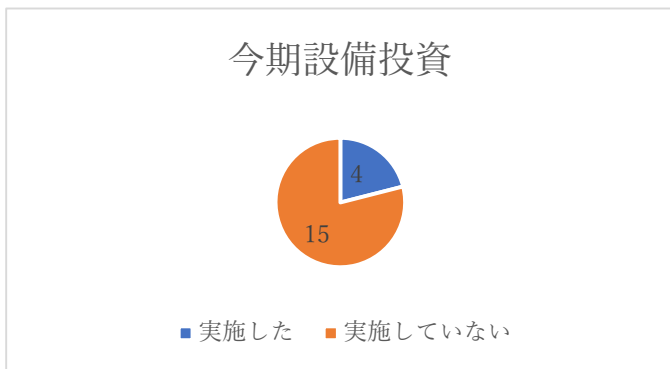
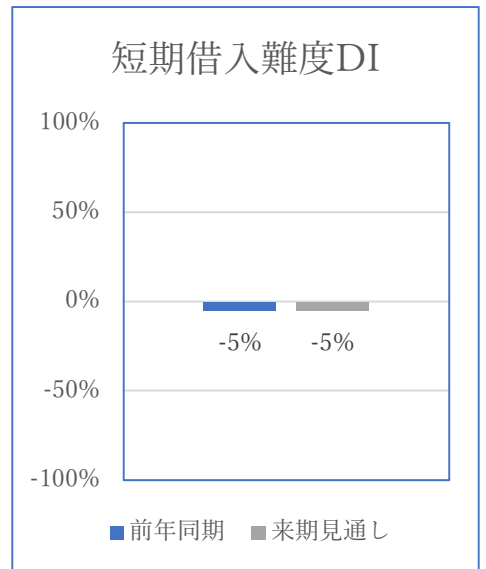
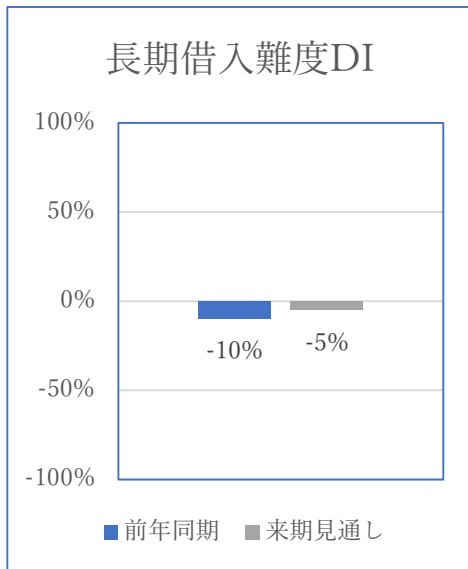
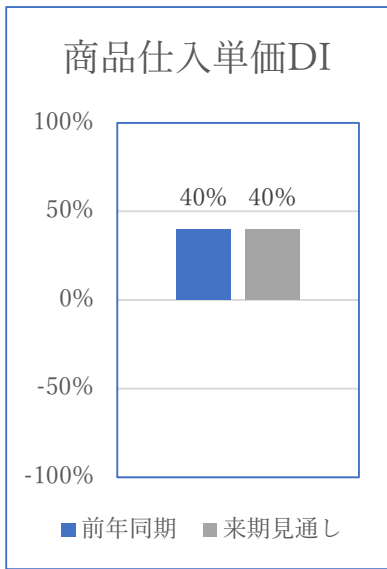


資金繰りDI



客数DI







飲食宿泊業（2021年10月～12月）DI値抜粋

コメント

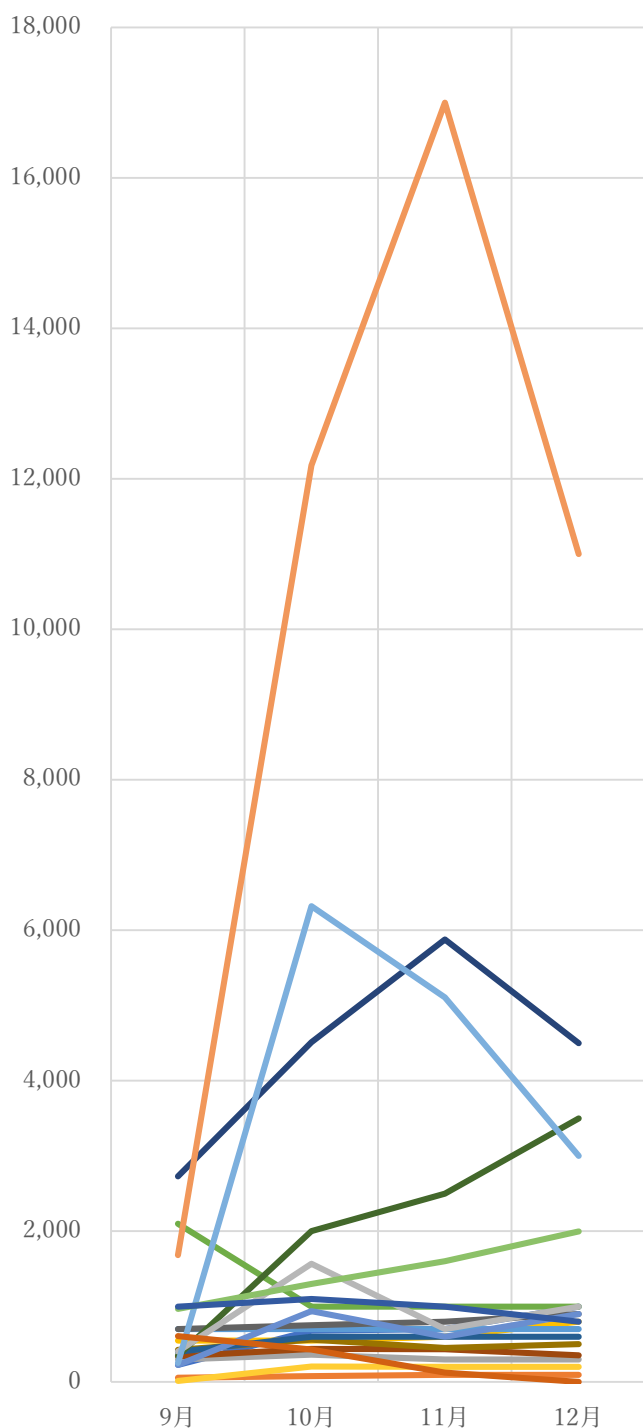
飲食宿泊業の業況に関するDIは、厳しい状況が続いており、緊急事態宣言が解除された状況ではあるが回復の見通しがまだ見えていない。

売上DIは前年同期▲60と前年の年末からの低下の声が大きく、前期比も▲30と落ち込んでいる。来期は▲20と回復を見込む企業の声は小さい。客単価DIも低調で、前年同期▲30、前期▲30と低調であり、今後の見通しも▲20と回復は見込めない。客数DI前年同期▲65、前期▲35、今後の見通しも▲35と客足の回復を見込む企業は少ない。

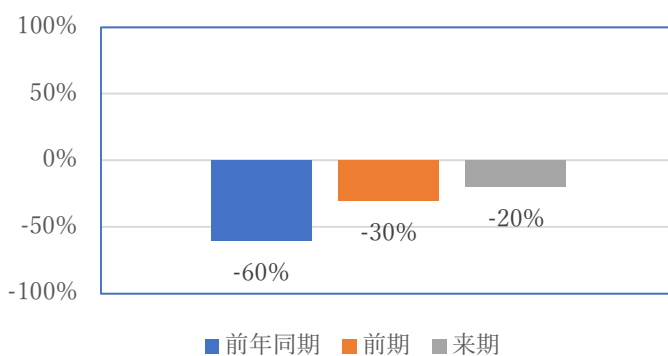
資金繰りDIは前年同期▲40 前期▲40 来期▲45 と飲食宿泊業の資金繰りは現状も見通しも厳しい。従業員DIは来期見通し▲15となっており雇用も低調である。設備投資に関しては補助金などが下支えして期間内に設備更新をした企業が見受けられる。

個別の声としてもコロナからの回復が難しい声が多い。コロナの影響を上げる声が他業種より多いことが特徴的である。法事や会合などの件数が少ないため、仕出し料理の需要が少ない。コロナ禍でのニーズの変化で料理屋の仕事が減少した。生活スタイルの変化で厳しいとの声があった。

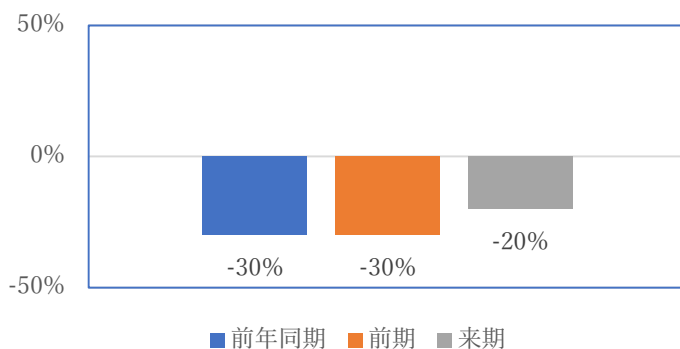
売上推移（千円）



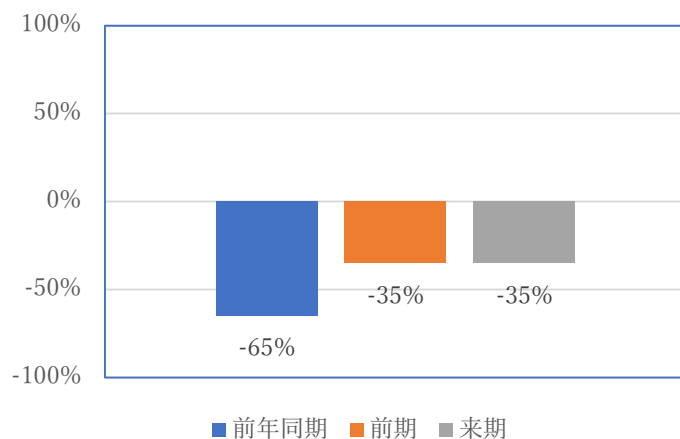
売上DI

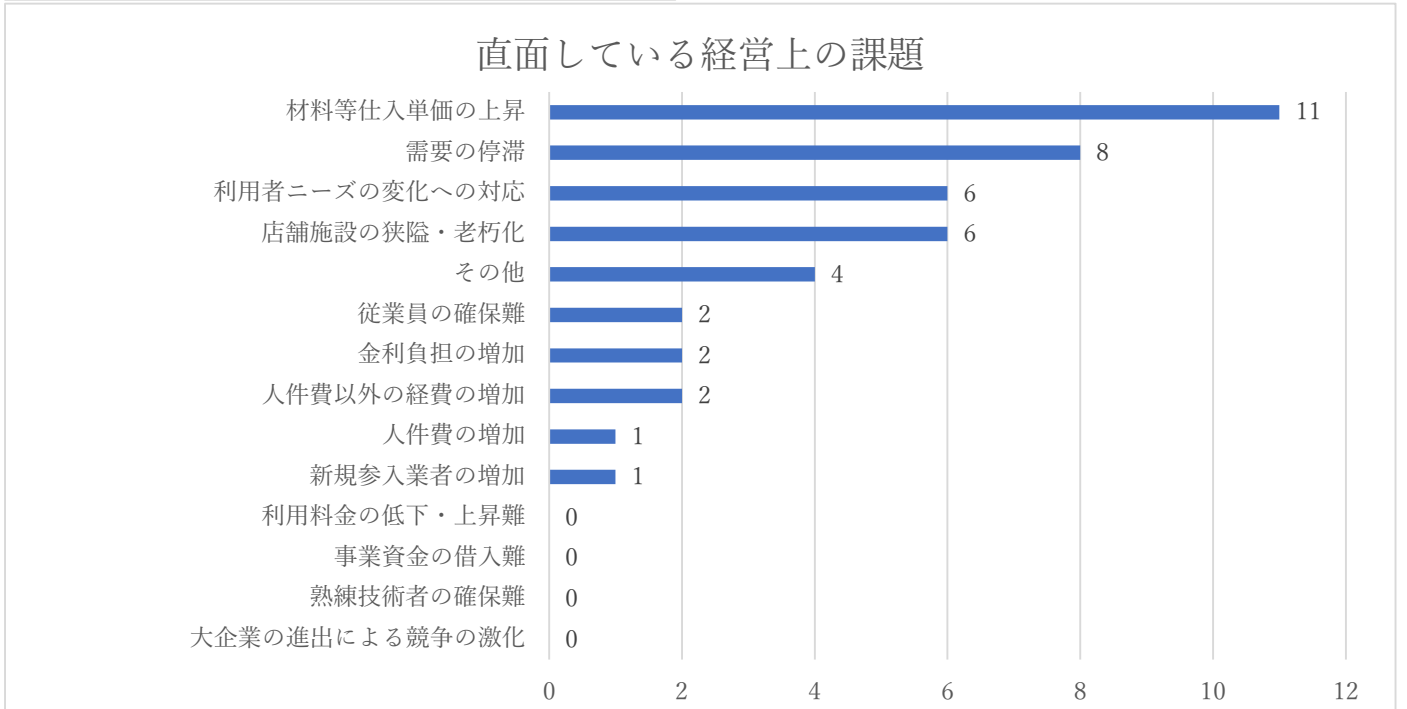
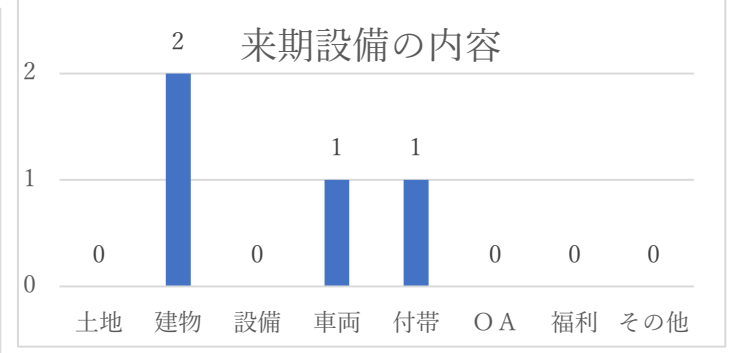
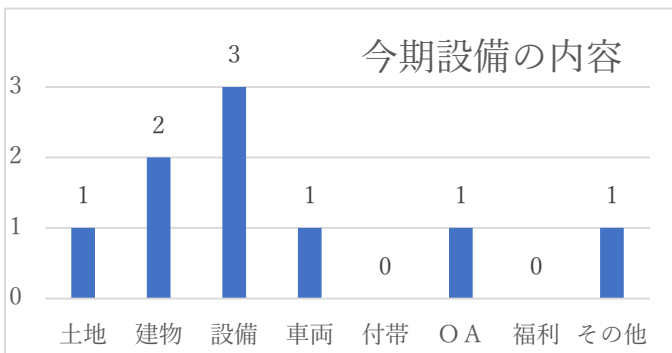
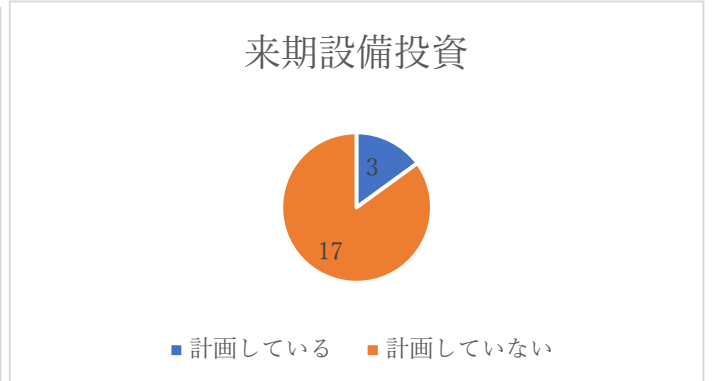
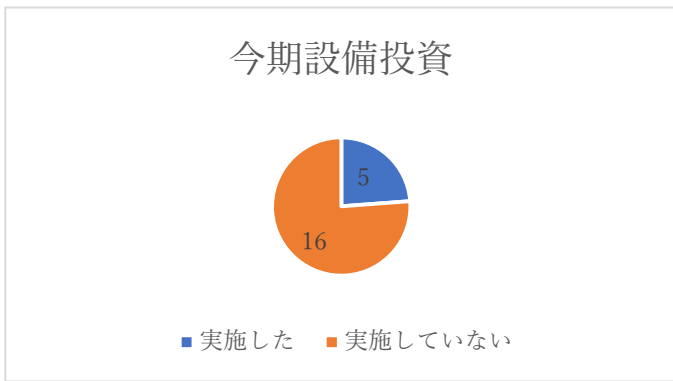
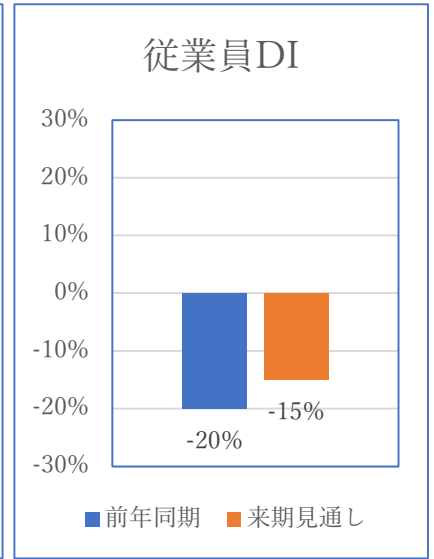
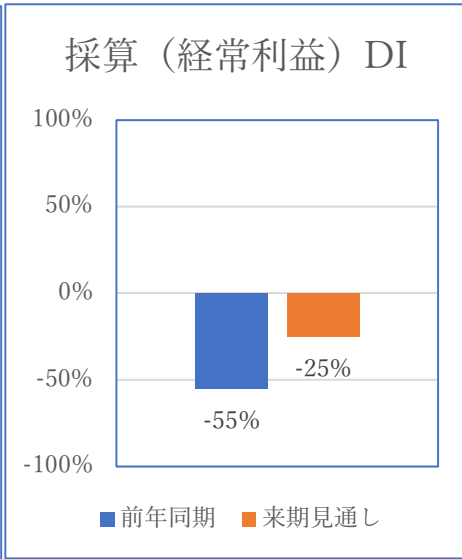
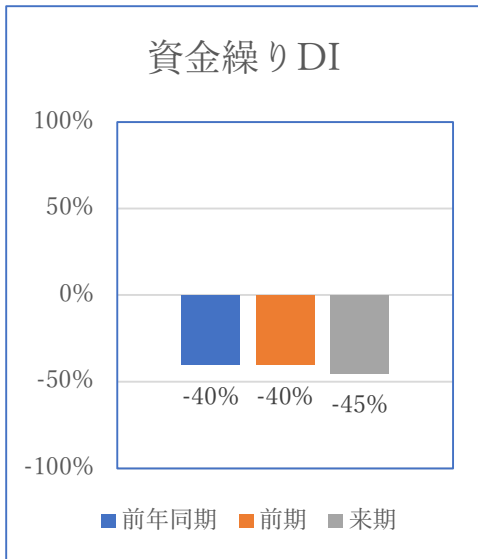


客単価DI



利用客数DI





サービス業（2021年10月～12月）DI 値抜粋

コメント

サービス業の業況は前回調査の低迷状況から下げ止まるが回復まで見込める状況ではない。売上DIは前年同期▲30、前期▲25と足元で低下傾向であり、来期見込みも▲5と緊急事態が明けても回復を見込めない状況である。客単価DIは、前年同期▲25、前期▲20、今後の見通しも▲10と下げ止まり傾向であるが低調、客数DI前年同期▲40、前期▲35、今後の見通しも▲20と低下傾向が続いている。資金繰りについて前期▲5、来期見通し▲10資金繰り悪化を上げる企業が過半である。採算DIは前年同期▲30、来期見通し▲20と収益の悪化の声が過半である。仕入れ価格の上昇を上げる企業が多く前年同期+25、来期+30と収益圧迫の懸念がある。個別の声としては、クリーニング業においてコロナで外出が減ることに加え秋が短いことにより売上が減少する、老人の出入りが少なくなるので整骨院の来院者が少なくなっている、半導体不足で新車の納車が遅れて売上が減少するなどのコロナに起因する経営環境悪化の声があった。

